



## ひらりんちゃん通信 (園長室だより) ⑥

令和8年3月5日  
文京区立千駄木幼稚園  
園長 篠澤 恵理

### 心のたくましさ

コマ回しや、一輪車、竹馬、ボール遊びなど、子どもたちの大好きな遊びを見ていると、すぐにできることもあれば、何度も繰り返し取り組んで、しばらくしてからできることもあります。遊びをよく見ると、やっているうちに体の動かし方を習得したり、「こうすると、うまくいくかもしれない」という見通しをもちながら取り組んだりしていることが分かります。うまくいったときに、前との違いを考えて、自分なりに思いついた予測を立てていることもあります。また、うまくいかなかった後に、自分で考えながら、試行錯誤していることもあります。やってみたらできるようになったということ、話しに来る子がいます。思うようにできなかった時の体験があっても、自分で考えて取り組んだことが自信となり、次もやっているうちにできるかもしれないと思う「心のたくましさ」につながっています。

大人も同様に、うまくいかないと感じる場面では、「なんとかする」と前向きになる日ばかりではなく、心が折れそうになることもあります。「なんとかなる」としなやかに対応する心のたくましさを見せたいと思うこともありますが、うまくいかないときの気持ちを、素直に伝えていくことも大切です。自分の気持ちを表しながら、少しずつ解決に向けて試行錯誤する姿をありのまま表してよいと考えます。うまくいかないことは、失敗ではなく、次に向かうチャンスになるかもしれないと、子どもたちが感じられるように支えてまいりましょう。

### 親子で通った思い出

我が家の息子たちが幼い頃、園の送り迎えの時に、よく立ち止まった場所があります。目当ては、通園途中にあるお宅の庭にあるブドウの木や夏ミカンの木でした。実が大きくなってきたとか、色が変わってきたなど、四季の変化を見るのが楽しみとなっていました。坂道の途中にあるので、帰り道では、自転車を押しながら一緒に見上げていたことを思い出します。また、小石を集めるのも日課でしたので、今でもその場所に行くと、当時と同じように見上げたり、道端の草花にも目が向いたりして、私が息子たちの行動を引き継いでいるかと思うことがあります。今振り返ると、マイペースな姿に対応できる日ばかりではなく、余裕のなかった毎日でした。それでも、ささやかな情景を覚えているということは、幸せな日々だったと思い出しています。

雨の日も風の日も、親子で通った思い出は、たくさんあることでしょう。年長組は、残り少ない日々ですが、一緒に歩いたり自転車で通ったりした道々の情景を改めて見直してみると、さらに心に刻まれて印象深くなりますね。子どもとつないだ手のぬくもりや笑顔などの温かな思い出は、子育てを頑張ったご褒美です。保護者の皆さんの努力と愛情は、子どもたちの心に残り、次の力になっていくことでしょう。

ひらひらと、子どもの世界に舞い降りて綴った「ひらりんちゃん通信」は、今年度の最後の発行となりました。子どもたちが成長したことを思い浮かべながら、子育てについて立ち止まって考える機会になれば幸いです。これからも、子どもたちの成長を応援し続けてまいります。